

# 二中の木

学校報  
第8号  
H29/08/25



能代市立  
能代第二中学校  
TEL52-5138

## 後期をひかえ、七〇周年記念行事に向けて 創刊期の生徒会誌「白金」を紐解く

昭和22年に創立された能代第二中学校。以来、一万八千名を優に超える有為な人材を輩出し続けてきた本校は、今年で71歳になります。記念事業としての七〇周年行事は、来る十一月二十三日（木）勤労感謝の日」を主として今年度開催されることとなります。

今号では、七〇周年行事に向けた計画や準備の状況を紹介いたします。併せて、昭和49年度に創刊されたあたりの「白金」から、能代二中ってどんな学校なのか、どんな学校を目指して生徒や先生が頑張っていたのかを紹介し、これからの能代二中が向かうべき方向を皆さんと考えたいと思います。

### 記念事業「のあらまし」

これまで、七〇周年事業に向けて昨年度末は同窓会総会、今年度に入っては実行委員会（PTA役員含）、同窓会代表幹事会を重ねてきました。記念事業の柱をお知らせします。



- 【式典部門】
- 11月23日（木）開催○午前 式典とアトラクション、午後 講演会○講演 教授 心理学がご専門
- 【事業部門】
- 屋上壁面への校名表示 能代二中

現在、校門脇に標柱はありませんが、はつきり遠くからでもわかるように校舎に記すことはできないか、とのご提言を同窓生からいただいたいました。

### 友愛の像

校門から入ってすぐ左手に、昭和33年に設置されたこの像があります。当時の生徒が名付け親となり、後に三つ目の校訓となった「友愛」へとつながる60年を経過して石膏像の傷みは激しくなる一方です。二中そのものと言える校訓の元となった「友愛の像」をど



うにかして残そうと、像の写真を特殊な方法で石に刻み半永久的な石碑にするものです。

○記念誌の刊行 70年の歴史を全て振り返ると言うのではなく、60周年からの10年間をまとめ焦点化しようと考えています。

○生徒用記念品・校章をあしらったハンカチ等が候補にあがっています。



式典では、アトラクションとして生徒の合唱等で、生徒にも出番を用意し思い出に残るものにと考えています。事業に係る各期の同窓の方々にお願いしたいです。お骨折りで、同窓生へのご寄付を呼びかけています。



また、60周年ではPTA会員の方々に一律千円をご協力いただきました。今回は、事業の規模をできるだけ簡素にしたのに伴い、生徒用記念品を希望者に千円で販売する形で賄いたいと計画しています。できるだけ多くの皆様にご協力いただければ、有り難いです。

### 「白金」からのメッセージ

昭和59年3月15日に発行されたのが、「白金」の創刊号です。「白金」は言うまでも無く、校歌の中の言葉です。母校を思い出すことのできる遺産」と編集後記の中で語っています。なるほど、二中の同期会に呼ばれて行

くと、必ずと言って良いほど誰かが「白金」を持ってきます。大切な宝箱なのかもしれません。



創刊期の「白金」から、特徴的で貴重なメッセージをいくつか紹介しますので、二中のこれまでや現在、そして二中や自分自身の将来を望む機会になれば嬉しいですね。

### 「二中学生に思うこと」

【第2号から】最近の二中学生は、以前と比べてずいぶんと都会的になったと思う。かつての素朴さが消えつつある。粘り強かった先輩が育てた二中独自のムードは、校訓によって受け継がれてはいるが、言葉だけで内容が伴わないのではないかと。校訓とは生き方の問題である。



校訓を自分のものとする真剣さが欲しい。

【第3号から】二中学生には、かつて二中学生にしかない野性味があるとされた。それは、初めから人を頼らず、自分が一歩前へ出ようとする「自主」に通じるもの。こじんまりとした紳士淑女であるよりも、信念を持ち討議し若さで全力投球できる、迫力ある二中学生であって欲しい。

S・O先生 ※引用文は一部編集させていただきま

さらにも求めるとすれば、迫力である。と、休み前集会で話しました。今こそ、よりよく変わる二中が見たいと思います。